

## 「僅差の争い！」

K耐久東海シリーズ2015は第2戦を迎えた。前日までの雨の予報はすっかりどこかへ飛んでいき、スパ西浦モーターパークは初夏を通りこして真夏の様相。開幕戦から2か月を経て各チームの戦力に変動があったか。

### 「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

まず開幕戦をとったのは、#100「HAC もらいものビート」、タイトル奪還に向けて好スタート。2位には#28「LIMITLINE トウディ」が自己最高位で入り、次はいよいよ優勝を狙う。表彰台のもう一つは#10「FASTOUT アルト」が Get、こちらも狙うは初優勝。KNN クラス初の新規格ウィナーになれるか。

注目の上位陣を含めて過去最大級の11台が参加、ノーマルだけどアツすぎるバトルが今始まる。

#### ■予選

予選トップは#410「ACRS Today」が1'08.943で獲得、2戦目からの出場でいきなりの好タイム。2番手は#28「LIMITLINE トウディ」1'09.738とこちらも10秒切り。3番手は#10「FASTOUT アルト」が1'10.914で開幕戦に続き新規格車のトップ、4番手に#100「HAC もらいものビート」が1'11.067、この位置から連勝を狙う。5番手#95「KHK アルト」1'12.793、6番手#74「アルジェンタートアルトGT」1'13.587と新規格アルトが続き、7番手には個性派マシン#30「ガレージミウラ ID プレオ」1'13.683が付ける。

8番手#5「PROJECT Kアルト」1'13.818、9番手#33「Timely アルトIDI」1'13.587、10番手にマルチニストライプが印象的な#6「ロッキーレーシング DXL アルト」1'17.001、最後尾はタイム計測ができなかった#35「JKレーシング EURO ビート」というグリッドで確定。

#### ■序盤

まず序盤を引っ張ったのは、#28「LIMITLINE トウディ」と#410「ACRS Today」。その後早めのピットインで中盤に備える。セカンドグループは#100「HAC もらいものビート」と#10「FASTOUT アルト」あたり。さらに#95「KHK アルト」も続き、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」までがほぼ一線。

予選から調子の上がらない#35「JKレーシング EURO ビート」、現在最後尾だが、少しずつペースを掴んできている。

#### ■中盤

中盤のスタントは各車ピット戦略も絡んでの混戦模様。その中で注目は#10「FASTOUT アルト」、新規格車勢の中でもトップクラスの速さを誇りラップタイムでも、旧規格にくらいつく。いよいよ世代交代も見えてきたか。

逆に旧規格勢は、1回のピットハンデを覆すべくプッシュ。見かけの順位、周回数はほぼ同一となり、余計に混戦模様を演出。ここから抜け出すのはどのチームか。

もう一台の注目は#30「ガレージミウラ ID プレオ」、セミツール型が目を引くが、エキゾーストも素敵、現在8番手だがどこまで上がるか。



祝！ 初優勝！！ #28



12秒差の2位！ #410



途中トップを走るも今回も3位！ #10



4位以下は久しぶりか #100



ここまでトップから2Lap 差 #95

# Race Report



## ■終盤

ゴールまで残り1時間、現在トップに行くのは#10「FASTOUT アルト」で93Lap。全く同一周回で、#28「LIMITLINE トウディ」。さらに1Lap 差の92Lap で#410「ACRS Today」。この辺りが表彰台争いかと思いきや、4番手#95「KHK アルト」も91Lap で追いかけており予断を許さない。

さらに開幕戦優勝の#100「HAC もらいものビート」も91Lap と虎視眈々と逆転を狙っている。

中団グループは#33「Timely アルト IDI」、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、#30「ガレージミウラ ID プレオ」あたりも90Lap 前後で競り合うというまれに見る混戦。どのチームに栄冠は輝くか！



ゼツケンと同じ6位 #6



個性派プレオは7位 #30



アルトバン本当に多くなりましたね #5



やりました！！







連続完走 #74

## ■最終結果

白熱の接近戦を制したのは#28「LIMITLINE トゥディ」、昨年までは VIVIO で参戦のチームが今季はマシンを変えてのエントリーで見事シリーズ初優勝！

2 位には同一周回わずか 12 秒差で#410「ACRS Today」、新規格車初優勝を狙った#10「FASTOUT アルト」は1Lap の 3 位となった。

以下は 4 位に#100「HAC もらいものビート」、表彰台を逃したのは久しぶり。5 位#95「KHK アルト」、6 位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、7 位#30「ガレージミウラ ID プレオ」、8 位#5「PROJECT K アルト」、9 位#74「アルジェンタートアルト GT」までが完走。

#33「Timely アルト IDI」と#35「JK レーシング EURO ビート」は義務ピットイン消化不足により完走扱いならず。

## ■総評

またも新規格車の初優勝はならず、旧規格車の勝利となったが、それも初優勝でチームとしては歓喜の瞬間。シリーズで見ればより一層混戦となったということだ。義務ピット不足が 2 チーム出てしまったのは残念だが、次戦は全車完走を目指したい。



残念ながら完走ならず #33



こちらも無念 #35



HANS を装着するドライバーも増えてきた



大事に至らず上手くクリアしたのだが・・・





逆襲のチャンピオン #25



ペナルティに泣いたか #66



今季初表彰台 #60



表彰台にはあとわずか #225

## KNCクラス（軽NAのクローズドクラス）

開幕戦で幸先の良いスタートを切った#66「VISCANTI トウディ」、それに対して絶対王者#25「アカミネコマル 2 トウディ」は 2 位発進。今シーズンはこの戦いがシリーズを回すのか。はたまた新たな主役が現れるのか… 第 2 戦は 5 台のエントリー。

### ■予選

予選トップは#25「アカミネコマル 2 トウディ」1' 08.693。予選開始時のコースアウト車両の排除のため、せわしなくなった予選時間ながらもしっかりまとめるあたり、さすがのチャンピオン。続いて#66「VISCANTI トウディ」1' 09.078、20 キロのハンディはさすがにきくか…開幕戦の勝者は 2 番手。3 番手#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」1' 10.670、前戦で自己最高位の 3 位表彰台。今回唯一の新規格車は、トップの牙城にどこまで迫れるか。

予選 4 番手は#60「明智自動車スペシャルトウディ」1' 10.670、予選 5 番手は鮮やかにカラーリングされた#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」1' 11.155 が今季初出場。

### ■序盤

序盤から#66「VISCANTI トウディ」と#25「アカミネコマル 2 トウディ」が激しく首位を争う。それを追うのは#60「明智自動車スペシャルトウディ」、#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」。#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」は 5 番手走行。

### ■中盤

中盤は#25「アカミネコマル 2 トウディ」がトップに立つが、#66「VISCANTI トウディ」も同一周回でピタリマーク。表彰台争いも僅差、#60「明智自動車スペシャルトウディ」と#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」もほぼ同一周回でしのぎを削り、接戦のバトルが 2 か所で行われているようだ。その争いになんとか#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」は加わりたいところ。

### ■終盤

ゴール 1 時間前になってトップは#25「アカミネコマル 2 トウディ」95Lap、#66「VISCANTI トウディ」も 95Lap、アツい！  
#60「明智自動車スペシャルトウディ」92Lap、#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」も 92Lap、こちらもアツい！  
しかしながら#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」も 90Lap でまだまだ食らいつく。



# Race Report



## ■最終結果

ゴールまでのこり 20 分となったところで#66「VISCONTI トウディ」が最後のピットイン。ところがピットロードで速度違反でドライビングスルーペナルティ。これで勝負あり、#25「アカミネコマル 2 トウディ」が 124Lap を走り切り、1 Lap 差で振り切って今季初優勝。#66「VISCONTI トウディ」は 2 位。

もう一つの争いは#60「明智自動車スペシャルトウディ」がこちらでも 4 位以下に 1 Lap 差でポディウムを手にした。#225「ぐっちっちプリントアートウディ」は惜しくも 4 位、5 ながらも#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」も 118Lap を記録。

## ■総評

最後までデッドヒートが続いたが、最後に勝敗を分けたのはドライビングスルーペナルティ。もちろんこれだけが理由ではないが、不注意からのタイムロスには実にもったいない。

しかしこれでシリーズ争いはがっすり四つ、次戦も楽しみになってきた。新規格車の#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」もレース中の最速タイムは 9 秒台前半と、かなり速くなってきており旧規格車もうかうかしてられない。



速さはアツプ #51



予選からバチバチ！！



勝利を奪い返したぜ！



オイルを奪い返したぜ！



大混戦その 1



大混戦その 2





見事な復活劇！ #38



わずか及ばず #36



ビートもまだまだポテンシャルアップ #37

## KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

開幕戦で#698「RN698 和泉管 Mira」が新規格車として初勝利、オープンクラスならではのマシンではあるが、面白いチャレンジングなマシン。対するのは JK レーシング 一門。さらに開幕戦でクラッシュとなった#38「デモリッションエグゼトウディ」も旧モノコックをベースに修復、さらには#4「CRAYZY RACING」と役者がそろった 6 チーム。

### ■予選

予選トップは#36「JK レーシングユーロトウディ」1' 06.115、後ろに#38「デモリッションエグゼトウディ」1' 06.223。3 番手には#4「CRAYZY RACING ビート」1' 06.820、4 番手 #37「JK レーシング EUROU ビート」1' 08.427 とビート対決。

注目の#698「RN698和泉管Mira」は5番手、1' 08.450、6番手#34「JKガチャピントウディ」1' 11.824は少し出遅れか。

### ■序盤

スタートでトップに立ったのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、開幕戦のリタイヤを振り払うかのように走る。それをピッタリマークするのは#36「JK レーシングユーロトウディ」、このクラスも一騎打ちかと思いきや#698「RN698 和泉管 Mira」も負けじとついてくる。

#4「CRAYZY RACING ビート」、#37「JK レーシング EUROU ビート」2 台のビートはピットイン敢行。#34「JK ガチャピントウディ」も遅れたくはない。

### ■中盤

中盤でもトップ 2 台の構図は変わらず、それを追いかける 3 番手争いが激しくなってくる。旧規格オープンカーの#37「JK レーシング EUROU ビート」VS 新規格パンの#698「RN698 和泉管 Mira」、何も共通点のない 2 台が、ほぼ同一周回で走る、このレースの醍醐味。

トップの#38「デモリッションエグゼトウディ」はここまで順調、バトルを楽しむかのようだ。

とここで#698「RN698和泉管Mira」にイエローフラッグ追い越しのペナルティ、最終的に1周減算になるのだがこれが響かなければよいが…



復活の V !!



# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■終盤

終盤になってきても各車の差は開くどころか、詰まってくる。ピット戦略の違いから一旦前が出る#698「RN698 和泉管 Mira」、ライバルが止まっているときこそプッシュ。残り30分を切って今度は逆に#38「デモリッションエグゼトウディ」がトップを奪い返す。#36「JKレーシングユーロトウディ」は虎視眈々と逆転のチャンスをかぎう。#37「JKレーシング EUROU ビート」も表彰台をあきらめない。予選好調だった#4「CRAYZY RACING ビート」、中盤は伸び悩んだが、最後まで走って欲しい。

## ■最終結果

第2戦のウィナーは#38「デモリッションエグゼトウディ」、前戦リタイヤのうっ憤を晴らすあっぱれな走りで、昨年以来の復活の勝利！2位には同一周回約19秒差で#36「JKレーシングユーロトウディ」。

3位は#37「JKレーシング EUROU ビート」が入ったが、4位#698「RN698 和泉管 Mira」との差は11秒、あのペナルティがなかったら…

5位#34「JKガチャピントウディ」、6位#4「CRAYZY RACING ビート」で全車完走。チェッカー後#698「RN698 和泉管 Mira」はハブ折れでスローダウン、まさにギリギリの完走だった。

## ■総評

見事復活勝利の#38「デモリッションエグゼトウディ」、シリーズ争いでも踏みとどまった。#36「JKレーシングユーロトウディ」はさらにポイントを重ねランキングトップに。ペナルティが惜しかった#698「RN698 和泉管 Mira」も実力は本物。予選好調の#4「CRAYZY RACING ビート」もまだまだ引き出しがありそうだ。



ペナルティが… #689



JMT(地元)代表 #4



全車完走 #34



ええ～ V8 っすか～！？



祝！ 初優勝！！ #330



予選時から好調で2位！ #48



さすがの表彰台 #392



今回は表彰台ならず #112

## KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

開幕戦は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が、昨年王者の貫録を見せてまず1勝、走りにも風格のようなものが出てきた。とはいえ2位に入った#330「DIXCELコンパノミラ」も1Lap 差であり、ポテンシャルは充分、いよいよ優勝を狙えるところまできた。今シーズン初参加のお馴染み#392「Zemmers ヴィヴィオ」と、こちらもシーズン初参加の#48「マキタスピード K 耐久ヴィヴィオ」のヴィヴィオ SC 対決など見どころ満載。

### ■予選

予選トップは#48「マキタスピード K 耐久ヴィヴィオ」1' 05.635、全体でも2位につける好タイム！2番手は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1' 06.446。3番手は#330「DIXCELコンパノミラ」1' 07.960 開幕戦時より速くなってきた。4番手#69「モモヤマレーシングアルト」1' 08.543、5番手#392「Zemmers ヴィヴィオ」1' 08.629、6番手#112「白須賀会カプチーノ」1' 08.764 という予選。

### ■序盤

予選から好調の#48「マキタスピード K 耐久ヴィヴィオ」がトップをキープ、それを他チームが追いかける展開。#330「DIXCELコンパノミラ」は早めのピットストップか。新規格車のピットは一回少なく、後半での伸びに期待する作戦か。スタートから30分少々を経過したところで#93「藤枝マリンダイビングアルト」がストップ、そのままタイヤとなってしまう、昨年のチャンピオンで開幕戦のウイナーがここで姿を消す。

### ■中盤

#48「マキタスピード K 耐久ヴィヴィオ」をとらえるのは#330「DIXCELコンパノミラ」のようだ、1Lap 差で追いかける展開が続く。3番手争いは#392「Zemmers ヴィヴィオ」と#112「白須賀会カプチーノ」のうちどちらが抜け出すか。

### ■終盤

終盤に入ってトップの争いはますます激化、先行する#48「マキタスピード K 耐久ヴィヴィオ」に#330「DIXCELコンパノミラ」が追い込みをかける。最終ステイントでの逆転もありうる展開に両チームの緊張も高まる。残る表彰台の1席は#392「Zemmers ヴィヴィオ」が有力か。だが、こちらももう一波乱があってもおかしくはない。



#48 は全体でもフロントロー獲得



今回はコースの一部改修があった



# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

このバトルを制したのは、#330「DIXCEL コンパーノミラ」、同一周回で#48「マキタスピード K 耐久ヴィヴィオ」を振り切ったの初優勝を飾った。2位は惜しかった「マキタスピード」。

3位は#392「Zemmers ヴィヴィオ」が入り久々の表彰台。4位は#112「白須賀会カプチーノ」。

5位は最終盤にスピン・コースアウトとなった#69「モモヤマレーシングアルト」だが、無事回収され完走なった。

実はこの時トップの#330「DIXCEL コンパーノミラ」は黄旗区間追い越しのペナルティを課されており1周減となっていた。結果トップ2台の差はタイム上でいうと1秒391差ということになっており、まさに僅差の戦いだった。

## ■総評

終わってみれば秒差の決着だったわけだが、マシンのにもさまざまなコンセプトのマシンたちが結果的に、僅差の争いを続けるという面白い展開だった。

優勝したミラは初優勝だったし、途中までトップを快走したマキタスピードのヴィヴィオ、さらには久しぶりの出場ながらしっかりとポディウムに上った Zemmers ヴィヴィオや、今回は残念な結果に終わった藤枝マリンなど次戦以降も見どころのある展開に期待したい。



序盤から競り合ったが #69



連勝をもくろんだがリタイヤに #93





開幕戦が初夏なら、第2戦はもう完全に夏！？

## KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

開幕戦から激しい戦いが見られたのはこのクラスも同じ、まず先勝したのは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、しかし速さを見せた#32「爆走あばれ馬ミニカ」も2位に入り、十分以上の暴れっぷり。

その2台に加えて、#717「Team Jatsun」と#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」の2台。#108は開幕戦のマシンとは異なりノーマルサイズのカプチーノ、「番茶」とのことだが、どこまでイケるか。

### ■予選

予選トップは2戦連続全体のPPで#32「爆走あばれ馬ミニカ」1'05.089、開幕戦のリベンジといきたいところ。2番手は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」1'05.975、菅生で行われたスーパー耐久と重なったため、一部のドライバーが開幕とは違うものの、しっかり2番手タイム、同日ダブル耐久勝利を狙う。

3番手は#717「Team Jatsun アルト」1'07.138、4番手は#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」1'10.118。

### ■序盤

序盤トップを行くのは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、2位#32「爆走あばれ馬ミニカ」だが、3位の#717「Team Jatsun アルト」もしっかりとついてくる。#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」も堅実の走行。

### ■中盤

中盤は3車が入り乱れての攻防、#717「Team Jatsun アルト」がトップに立つシーンも見られ、ポテンシャルが上がってきていることを見せつける。

#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」は今回2人のドライバー、真夏のような気候がどんな影響をもたらすのか。#32「爆走あばれ馬ミニカ」はレース展開を見極めようとしているのか、不気味に3番手走行。

#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」もしっかり走りたいところ。

### ■終盤

ゴールまで残り一時間の時点で、トップ#32「爆走あばれ馬ミニカ」と#717「Team Jatsun アルト」は100Lapで同数、#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」も99Lapでピタリマーク、優勝はこの上位3台に絞られてきた。

#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」は、終盤スピンやホワイトラインカットのペナルティなど、ワイドとは勝手が違うのかリズムに乗れない場面もあったが、周回はしっかりと稼いでおり完走は間違いのないところ。



開幕戦の借りは返したぜ #32



第2戦は2位 #9



速さが増してきたこのマシンにも注目 #717



# Race Report



## ■最終結果

第2戦を制したのは#32「爆走あばれ馬ミニカ」、開幕戦での借りを返す今季初優勝。2Lap 差の2位には#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」が入った。3位には#717「Team Jatsun アルト」が入りこのマシンとしては初表彰台、しっかりと速さも増してきており今後が注目。4位は#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」、しっかりと完走するあたりはさすがだ。

## ■総評

今回は開幕戦とは逆の順位で1位2位が入り、ポイントでは同数に並んだ、今年も接戦の予感がする。3位に入った#717「Team Jatsun アルト」も注目、この勢いをトップ2にぶつけて牙城を崩せるか。真夏のような暑さだった第2戦だが、次戦は本当の真夏、各チームともマシン、ドライバーに万全の暑さ対策を施して臨んでもらいたい。



今回はちょっとリズムが作れなかったか #108



うおっと！！



やったね♪

